

ふるさとわかまちづくり

小峯町自治区

◆「小峯町」の由来

区の生い立ちを語る記録は残されていませんが、昔は大島藩（今の足助町大島）に管轄されていたようです。むかし村の中に井戸洞という字名がありました。この中の一つに小峯があり、古来より村名として続いてきました。

ほとんどの人々が農業、林業で生計を立てていました。この穏やかな村は、その後も大きな出来事もなく、歴史の流れのまま今日に至っています。明治22年の町村合併では、他の4村と合併して石下瀬村になり、明治39年に石野村に、そして昭和30年に猿投町、保見村と合併し猿投町になりました。

◆社会教育活動

皆さんの地域では法事や寄り合いなど、各種の会合では必ず時間どおりに始まりますか。良きリーダーに恵まれ戦前から時間を守る、また礼儀をしっかりとするなど物事のけじめをつけることを1番に実行しています。これが子ども会、婦人会、老人クラブなどの活発な社会教育活動の礎となっています。



◆防災意識

47.7集中豪雨では、各所で崖崩れ、道路決壊など甚大な被害を受けました。そのため、区民の1人、1人が災害については非常に用心するようになりました。地域で排水溝や河川の掃除を行い、過程では枕元に懐中電灯を備えている人もいます。

皆さんも万一来に備え、日頃から防災に努められてはいかがでしょうか。



万燈祭り

◆万燈祭り

代表的な町の行事に万燈祭りがあります。いつの頃から始まったのかわかりませんが、毎年8月14日、15日の2日間、子どもたちが麦わらを束ねて火をつけて振り、「鬼でも餓鬼でもさあこい、さあこい」と声を出して、先祖の供養をします。いつの時代になってもこれだけは続けていきたいと思っています。

◆心の安らぐのどかなまちづくり

小峯町では、心の安らぐのどかなまちづくりとして、荒れた田畑にコスモス、菜の花、桃の木、モミジの木を植えています。

町に流れる小峰川は、みんなの力で水がきれいになり、ハエ(川魚)が増え、ホタルがたくさん飛ぶようになり、町外からも多くの人たちが見に来るようになりました。

最近では、イノシシやシカが出て、農地を荒らすようになったので、みんなが防護柵を張りました。これからも、安心して住めるふるさとまちづくりを進めていきたいと思っています。

小峯町自治区データ (H20.4現在)

世帯数：29世帯
：29世帯(昭和52年)
組数：5組
面積：1.370K㎡
自治区たより：「小峯町だより」
回覧：月2回
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：18箇所
小学校：東広瀬小学校校区
自治区会館：小峯町公民館